令和5年度(2023) 自己点検·自己評価結果

洛生会川口看護専門学校

教育活動および学校運営の評価を行いました。 (評価表は済生会看護学校7校共通のもの使用)

評価は7領域 31項目について行い、カテゴリごとに平均点を算出しました。



評価の概要

評価の概要	<i></i> ·	Inc
カテゴリー	評価点	
I. 学校運営	3.6	新校舎プロジェクトチームと建築会社との検討を重ね、構造図や配置などを確認し順次すすめている。 少子化・大学全入時代のなかで受験生減少と定員充足の難しさに苦慮している。新校舎建築と母体病院のアクセスが良くなることは学生確保に有効な条件であり期待している。 専任教員の平均年齢が高く、今後に向けた教員確保と育成も学校経営としては重要な課題である。若手人材の確保についてもすすめていきたい。教員不足により専門性や教育の質が不十分となるため単年ではなく数年かけて取り組む課題である
Ⅱ. 教育理念・ 目標・教育課程・ 教育活動	3.9	新型コロナ感染症が5月より5類に分類され対面交流が可能になった。R2年から制限や中止したものを順次経過をみながら再開した。 母体病院の実習は予防・対応策のうえでほぼ予定通り実習が実施できた。精神科病院および老健施設は一部の実習が臨地での実施が可能となったが、学内・模擬患者で学習を補完した。 教員の経歴を考慮し授業や実習配置を決めている。教員不足の折、専従が難しく幅広く柔軟に対応できる事も必要と考え、病棟担当を検討している。 基礎看護技術に関しては、複数の教員が担当するので主担当者の授業に参加している。 技術試験に関連した内容は、デモストに参加しており、ポイントとなる内容を共有し講義や演習をしている。
Ⅲ. 卒業・就職	3.0	国家試験合格96.9%であった。国試対策は1年次は解剖生理強化、2年次は低学年模試振り返り、3年次はグループ担当制でサポートしている。補講授業のほか成績不振者への特別学習を実施している。 卒業生のうち3名が進学した。母体病院就職は88%だが埼玉県内就職100%であった。母体病院付属の学校は連携良くサポートはしやすい環境である。就職1~2年目の卒業生に来校してもらい、職場の様子について話を聞く機会は現在中断しているが、状況に合わせながら再開の方向で検討していく。離職者の就職相談は、現実的に対応していない。
Ⅳ. 学生生活支援	3.6	授業料をカバーできる額の奨学金を母体病院が3年間支給し、卒後に就職して返済するという制度は、就学から就職までを支援するもので学生支援としてはベストなものと思われる。また。インフルエンザワクチンは学生も無料で病院が接種している。病院付属の強みを今後もアピールしていきたい。メンタル不安を抱えている学生の相談に応じながら、スクールカウンセラーが必要と思う学生には相談を促している。ストレスマネージメントの視点は不足している為、ストレスチェックやストレス耐性のサポートも今後は検討していく必要がある
Ⅴ. 経営・管理・財政	3.5	教育効果を考慮し限られた財源を有効活用しながら管理している。3年後の校舎移転を念頭に計画的に執行していく必要がある。 校舎老朽による臨時補修などもある。 ハラスメント研修は教職員全員が受け意識化している。会議等で共有し注意を促している。ハラスメント規程、防止ガイドライン、苦情処理指針などを策定し、教員職員に周知、新年度に全学生にガイドラインを配布できるように整備した。乳児院併設のため管理人が常駐、監視カメラや警察連動の緊急体制もある。 避難訓練、消防訓練は乳児院と合同訓練を実施している
VI. 教育環境	3.3	全体的に狭い構造である。耐震工事は平成24~25に実施した。エレベータには車椅子1台がギリギリである。専用スロープはなく簡易スロープで対応する。インターネット検索が可能なPCはあるが、学生1人に1台の台数は整備できていない。情報処理室のLAN状況に限界がある。図書司書が管理運営し、学生からの図書リクエストにも対応している。WEB検索も司書が支援している 利用が多い学生の年間表彰などもしている。
Ⅷ. 広報・地域 との連携	3.5	次年度入学生が大きく定員割れした。入学試験の実施回数を増やしているが、受験総数が減少している。 2年後の新校舎移転はアピールポイントとして、インスタグラムなどSNS広報を開始した。 新校舎の イメージ図を建築会社から入手しホームページやインスタに公開していく計画ですすめている。学校説明会を6月から開始した。 7月・8月の夏季休暇時期は午前と午後の2回とした。高校訪問を再開し県内公立高校7校に出向き情報収集ができた。川口市主催のたたら祭りが再開され、病院職員と一緒に流し踊りに参加した。